

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

5 スポーツ・レクリエーション

～市民が自らの健康状態に応じてスポーツやレクリエーションを楽しむことができるまち

<A 基本計画の目標>

子どもから高齢者までが身近なところで、生涯にわたってそれぞれのライフステージや健康状態に応じて楽しむことができる市民スポーツを振興します。また、そのための活動場所を充実します。

海、山など自然とふれあい、自然環境の保全と調和について理解を深めながら行うことができるスポーツの振興を図ります。

多様なニーズに対応できる体制づくりや公式競技開催が可能な施設整備を積極的に進めるとともに、施設の広域利用をはじめとしたスポーツに関する多様な情報をネットワーク化し、スポーツを身近なものとしていきます。

活動団体への指導・援助や、地域における指導者の養成と資質向上により、スポーツに対する多様な要望にこたえとともに、健康状態にあったスポーツができるよう、推進体制を整備していきます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	38.4 %	37.6 %	40.2 %	39.3 %	41.4 %	↗

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【市民活動部】

	自己評価
<p>鎌倉海浜公園水泳プールは、平成23年度に引き続き地震に対する構造強度が確保されていない管理棟について仮設建物を利用し、市民の利用に供しました。また、津波対策については避難経路の改善(短縮)等により、利用者の安全確保を図りました。</p> <p>スポーツの場の提供の拡大を図るため、近隣企業のグラウンド借り受けについて協議を進めました。</p>	○
<p>スポーツ施設の指定管理者とはモニタリング以外に、定期的に連絡調整会議を開催し、利用者サービスの向上のために、現状や問題点を共通認識し利用環境の整備を図りました。</p> <p>また、平成24年度に指定期間が満了となるため、平成25年度からの次期指定管理者を公募により選定し、次期指定管理者の指定を行いました。</p> <p>鎌倉体育館の給水設備(シャワー室)を改修し、利用者が快適にスポーツができるよう利用環境の改善を図りました。</p>	◎
<p>各種のスポーツ事業及びスポーツ活動の普及では、ライフステージにあった生涯スポーツの普及を図るため、高齢者を対象とした筋力トレーニング等の体操教室を開催した他、マリンスポーツ初心者教室、市民運動会、スポーツレクリエーションフェア、健康ウォーク、各種競技スポーツ大会を開催しました。</p> <p>また、子どもの基礎体力づくりを目的とした「おやこ体操」や鎌倉の自然を生かした材木座海岸での「砂浜でかけっこ」、鎌倉中央公園での「山野でかけっこ」、徳洲会体操クラブと連携した「初心者子ども体操」などを実施しました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【市民活動部】

・未だに市民のスポーツやレクリエーションを楽しむ空間の創造は不十分であり、各スポーツ施設の利用確保は難しい。適地調査、上部利用を検討するとともに、周辺都市との連携のなかで検討するなど、不足するスポーツ施設を代替する機能の検討を早急に進めるべきである。



鎌倉市のスポーツ施設は多くの市民の方々に利用されておりますが、近隣市に比べて、数、規模ともに同程度に整備されているとは言い難い状況にあります。このため市民やスポーツ団体からは施設の整備・充実が求められておりますが、昨今の厳しい財政事情や法令等による様々な土地利用の規制などにより、なかなか施設整備に向けた検討が進まないのが現状です。

整備費の確保のための基金への寄附金を募るなど積み立てを実施するとともに候補地として深沢地域国鉄跡地整備事業にスポーツ施設機能導入を働きかけていきます。

既存施設の上部利用については、スポーツ環境の整備に向けて検討を進めます。また、近隣企業が所有するグラウンドを定期的に借用し市民の利用に供すよう事業者との調整・連携を図ります。

・笹田公園、学校グラウンドなどにナイター設備を設けて開放利用するなど、利用時間を増やすことも必要である。なお、施設の開館時間延長については、「費用対効果の検証等を指定管理者とともに進める」とあるが、費用対効果については、収支計算だけではなく、市民満足度も考慮して評価することが重要である。

スポーツ振興基本計画を策定する際に実施したアンケートでは、スポーツを行わない理由として「時間がない」との回答が約40%を占めました。このことを踏まえると、このような方々へのスポーツ活動の場の提供を図る上では、利用時間の延長が有効であり、開場日の拡大や開場時間の延長ができるよう条例を改正し、平成25年4月より施行しました。

・実施計画事業4-5-3-①基金の積み立て状況はどのようになっているか明らかにして頂きたい。

鎌倉市ホームページの「財政事情の公表」において、基金の状況について公表しています。平成24年度末の積立額は、121,994,511円であり、平成20年度及び21年度には市費により合計120,000千円の積み立てをしましたが、22年度以降は利子積立金のみとなっています。平成24年度から基金への寄付を呼びかけ積み立てをはじめました。

・実施計画事業4-5-3-②神奈川県公共施設利用予約システムの運用状況について開示して頂きたい。

神奈川県公共施設利用予約システムは、市民がいつでもどこからでも、鎌倉体育館他9施設の予約や空き状況の照会などができるシステムで、原則として、抽選申込や予約申し込みは午前5時から午後11時59分まで、空き状況照会は24時間利用が可能です。鎌倉市ホームページのオンラインサービス「施設の利用と予約」からどなたでもアクセスできます(抽選及び予約申し込みは、事前に利用者登録が必要)。平成24年度は、95,037件の抽選予約申込がありました。

・連絡調整会議で取り上げられた問題点と共通認識及び整備を図った主要事項について開示して頂きたい。

指定管理者との連絡調整会議は、毎月1回、施設責任者と指定管理施設の管理運営について日常業務の報告を受けるとともに、施設の不具合、運営上で発生した問題点や管理運営に関して改善を求める利用者の声等に対する対応について協議を行いました。

協議を基に改善、対応した主なものは、駐車場のない見田記念体育館の利用者に対する鎌倉体育館の駐車場の利用を可能にしたこと、トレーニング器具をより利用しやすいように配置を変更したこと及び施設の不具合について修繕を実施する優先順位について協議し、各所の修繕を実施したことです。

また、比較的規模の大きい修繕実施に際しても連絡調整会議における協議により、利用者への周知、案内を確実に実行し事故や混乱等なく修繕を完了させました。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【市民活動部】

スポーツ施設建設基金の新規積立が課題となっています。

※未達成の理由<支障となった理由>
財政事情によるものです。

<F 今後の展開(取組方針)>

【市民活動部】

・スポーツ施設の整備に向けては、適地に係る調査を行うとともに、公共施設再編計画基本方針を踏まえた施設建設の検討を行います。

なお、施設整備については、既存公共施設の上部利用や民間活力の導入など、幅広い視野で本市の実情に適した手法を検討します。

・近隣企業の施設借用や周辺都市との広域連携も含め、スポーツの環境整備に努めます。

指定管理者制度を導入したスポーツ施設について、円滑な管理運営が遂行されるよう適切にモニタリング等を行うとともに、利用者サービスが向上されるよう指定管理者と協議調整を図ります。

指定管理者と連携し市民ニーズを把握しながら、誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、スポーツ実施のための環境整備に取り組めます。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
スポーツ施設の 利用者数(+)	スポーツ施設(鎌倉・大船・見田記念体育館、鎌倉武道館、海浜公園水泳プール等)の年間利用者数の合計	431,283 人	496,279 人	482,890 人	500,759 人	522,136 人	470,000 人	475,000 人
日常スポーツ実践 率(+)	1回30分以上の運動を週1回以上行っている市民の割合	47.1 %	51.4 %	49 %	49 %	50.4 %	54 %	54 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	374,380千円	298,092千円	261,853千円	284,841千円	286,418千円			
	(国・県)	8,890千円	9,066千円	9,250千円	9,400千円	0千円			
	(負担金等)	16,024千円	20,045千円	20,680千円	20,293千円	16,893千円			
	(一般財源)	349,466千円	268,981千円	231,923千円	255,148千円	269,525千円			
	人員配置数	9.0人	8.0人	7.0人	7.0人	7.0人			
	人件費 (B)	78,450千円	71,530千円	61,747千円	60,975千円	56,847千円			
	総事業費(A+B)	452,830千円	369,622千円	323,600千円	345,816千円	343,265千円			
	対前年比		81.6%	87.5%	106.9%	99.3%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・既存施設における利用向上に向けた施策は行われている。
- ・材木座海岸での「砂浜でかけっ子」、鎌倉中央公園での「山野でかけっ子」など、海山の自然の特性を活かした取組が実施された。限られたスポーツ施設、空間を有効活用した取組は評価できる。
- ・各種のスポーツ事業を開拓して、幅ひろい市民のためのスポーツ・レクリエーションを提供しようとしている。高齢者対象の体操教室、マリンスポーツ初心者教室、健康ウォーク、各種競技スポーツ大会等、ライフステージにあった生涯スポーツの普及に努めている。
- ・アンケートによるニーズの把握を行うとともに、その結果を踏まえて開場日の拡大や開場時間の延長ができるよう条例を改正し、平成25年4月より施行することにより、スポーツ活動の場を提供する等、改善のための分析と行動がしっかり行われている。
- ・近隣企業のグラウンド借受の協議を開始した。



課題・提言

- ・市内ですべてのニーズを満たすことは不可能であり、近隣都市との相互利用等の広域的展開を検討する必要がある。
- ・スポーツやレクリエーションを楽しむ空間が十分ではない。近隣市にくらべて厳しい状況にはあるが、既存施設の上部利用なども引き続き検討すべきである。
- ・市街地整備とも連携を取り、スポーツ施設、グラウンドの誘致を進めるべきである。
- ・難しい財政事情下であるが、深沢地域国鉄跡地にスポーツ施設機能を導入すべきである。スポーツ施設の窮状を具体的に広く市民に訴える必要がある。
- ・指定管理制度の有効な活用と、施設設備の有効転用などを検討していく必要がある。
- ・モニタリング結果の公表が必要である。
- ・指定管理者の変更については、価額も重要ではあるが、それ以上に実績やサービス内容が重要である。市民サービスの低下につながる様な業者選定とならないにする必要がある。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、良好であった。